昔の後妻の話

ある家の、先妻さんが亡くなって、お父さんが後妻もらったそうです。娘さんが一人いてあったようでしたね。でも、お父さんがどーうしても、上方参りに行かなけりゃぁいけなくて、その子供に「お土産に帯、買ってきてあげるねえ」ってしゃべって行ったそうです。それでその子供は楽しみに待っていたんだけど、その後妻さんが、旦那がいないうちにこの子共を、どうにかしようと考えたらしいですね。それで、昔は味噌煮る大きな釜、どこにもあるんですよ、大きい釜にお湯を煮たらせで、沸騰させで、板の橋を架けて、その向こうの端に子供が食べたぁい、欲しい物を置いたんですね。それで、その子供に「あれ欲しがったら、この橋わだって行きなさい」。そう言ったところで、子供だから、欲しいいっぱいに、その橋を渡ったそうです。そうしたらいきなりその煮立った釜にドンと落ちてしまって、亡くなったらしいですね。お父さん帰って来てびっくりして、くやーしして、そのお父さんが巫女をおろしたそうですね。そしたらその子供が、巫女が言うに、「帯もいらない、櫛もいらない、神さ参った父が恋しいなあホー、ホケキョ」と言ったそうです。それがウグイスでながったが。「帯もいらねば櫛もいらない。神さ参ったテデこ恋しいホー、ホケキョ」と言ったそうです。せば、ウグイスになったたぴょの。とっぴんぱらりのちーやらぷ。

渡部あや（檜山・昭和3年生・70歳）

〈解説〉

「継子いじめ」の物語。継子が釜の中に落ちて、その霊が鳥になって「帯もいらない、たすきもいらない、神さ参った父恋し」と鳴く。こうして鳥に化身して父への思いを伝えたり、山へ娘を探しに行く父が疲れ果てて死んでしまったり、さまざまな類話が残っている。